

令和8年度第1回伊賀市地域公共交通活性化再生協議会 議事録

■開催日時 令和8年5月29日（金）
午後1時30分～午後4時00分

■開催場所 伊賀市役所 5階 501会議室

■出席者 （敬称略）

【委員】

福岡 秀明（地域力創造部長）
上田 太一（西日本旅客鉄道㈱）、山本 恒平（近畿日本鉄道㈱）
市川 寛（伊賀鉄道㈱ 代理：植村 泰至）、川北 幸宏（三重交通㈱）
前田 敦志（三重県タクシー協会）、
尾上 義文（三重労働組合伊賀支部）
森 慶之（中部運輸局三重運輸支局）、
谷岡 憲太郎（伊賀警察署交通課）、野村 和之（名張警察署交通課）
山下 健康（三重県地域連携・交通部交通政策課 代理：柴原 健佑）
辻本 勝久（学識経験者（和歌山大学経済学部教授））
山本 いずみ（公募委員）、成底 正好（公募委員）、
堀田 大（いが移動送迎連絡会）、佐藤 末光（伊賀市障害者福祉連盟）
西口 馨（島ヶ原地域まちづくり協議会）

【オブザーバー】

中部運輸局鉄道部 大野

【事務局】

公共交通課 森地課長、中島主幹、中川係長、岡本

■欠席者（敬称略）

【委員】宮崎 寿（伊賀市副市長）

【委員】江川 晃平（国土交通省中部運輸局交通政策部交通企画課）

【委員】沢西 芳円（三重県伊賀建設事務所）

■傍聴人：8人

■会議概要

1. 開会

公共交通課 森地課長

会長あいさつ

お集まりいただきましていただきまして、ありがとうございます。
現在、伊賀市地域公共交通計画に基づきまして、24の事業と56の施策に取り組んでいるところです。

本日は、その進捗状況等、協議事項として挙げております他、行政バスのリ・デザインプロジェクトや名張市の公共ライドシェア実証運行に関する報告も予定をしております。

皆様ご承知の通り、国は公共ライドシェアといったあらゆる移動手段の活用をはじめ、医療や教育機関等と連携した地域の資源のフル活用等を望んでいるところです。非常に難しいですが、本日の報告事項や協議事項をご覧いただきますと、まさにそういった国の動向とも合致するような重要な事項が並んでいると考えております。

今日は、ぜひ暮らしに寄り添う、公共交通をよりよいものとなるよう、活発な議論にしていきたいと思います。

委員自己紹介

事務局自己紹介

資料確認

2. 協議事項

(1) 令和7年度協議内容及び決算について

事務局から、**資料1**に基づき説明

監査結果について、三重県地域連携・交通部交通政策課より報告あり。

三重県地域連携・交通部交通政策課	令和7年度の歳入歳出決算について令和8年5月11日に証拠書類の調査を実施しました結果、いずれも適正に執行されており、歳入歳出決算書に誤りがないものといたしましたのでご報告をさせていただきます。
------------------	--

【質疑応答】

なし

【承認】

(2) 令和7年度伊賀市地域公共交通計画の進行管理について

事務局から、**資料2**に基づき説明

【質疑応答】

会長	皆様方からご紹介いただけそうな取り組みがあれば、お願いしたいと思います。もしくは、事務局の説明に対する補足説明でも結構です。私の和歌山大学では、令和7年度後半に、学生が伊賀鉄道に来ました。マスコミに、お座敷列車という形で取り上げられ、かなり反響がありました。 ご説明いただいた施策番号35のサイクルトレインはどんなものでしょうか。教えてください。
委員 (伊賀鉄道)	昨年、近鉄では4日間、大阪から賢島まで運転をしていただきまして、伊賀市に関しては、大阪上本町から伊賀神戸で乗り換えて、伊賀鉄道に乗っていただくものと、伊賀方面から伊賀神戸で乗り換えて、上本町に行ってくださいものがありました。時間的には、朝の早い時間帯に実施していました。
事務局	伊賀鉄道につきましては、伊賀上野駅を除く、新居駅から伊賀神戸まで、サイクルトレインという形で自転車に乗っていただいているものになります。周知もまだまだ届いてない部分があるかと思いますので、皆様機会ございましたら、広げていただければと思います。
委員 (三重交通)	1ページの3、高速バス路線網の維持について、伊賀から名古屋まで行ける直通の高速バスですが、コロナ前に比べてかなり1便あたりの乗車人員が減っております。コロナで出張が減った等、生活スタイルのなかでの変化というのがあります。それから名古屋への通勤通学の方が今まで以上に減っていると思います。当社としましてもこのまま放置するわけにはいきませんので、何か実効性のある集客方法がないかということで今考えているところです。伊賀市と情報共有をしながら考えていきたいと思います。
委員 (市民公募)	3ページの重要施策番号22のマップの作成、観光情報誌等の公共交通利用情報の発信とにんまるの時刻表はどのように関係しているのでしょうか。ポケット時刻表を見ていましたが、なかなか分かりづらいです。
事務局	ポケット時刻表については、最後のあたりに、にんまるの路線図が載っています。これは、ホームページで公開をしています。また、にんまるは別のチラシもあり、もう少し大きな路線図と時刻表がホームページからもダウンロードできるようになってます。ポケット時刻表は非常に細かいですので、もう1つのチラシを見ていただきたいと思います。
委員 (市民公募)	時刻表とアプリは連動しているのでしょうか。

事務局	その他の項でRYDEPASSのチラシを説明させていただく予定でしたが、この6月1日から行政バスとコミュニティバス「にんまる」の定期券と回数券について、全線共通という形で、アプリを通じて販売しています。コスモス号は対象外です。 今までは紙で販売していましたが、6月からデジタル化ということで、スマートフォンで、定期券と回数券は利用できるようになります。また、スマホで購入ができますので、窓口まで来ていただいて、お金を払って購入しなくても、自宅でクレジット購入でき、非常にお買い求めいただきやすくなります。紙の回数券でしたら1個1個切って渡していましたが、これはスマホでタッチしたら、回数券も1個ずつ減っていきます。 運転手に見せて、使用しますかと表示されるので、はいを押すと、11枚の回数券が1個減る仕組みになります。これは、アプリになりますので、そちらと路線図等の連動というのは、これから検討かなと思います。ただ、グーグルマップでは、伊賀市のにんまる等は検索できるようにしております。これから、デジタル化していくなかで、そういった乗車方法につきましても、他の情報提供サービスと連携させていけたらと考えています。
委員 (市民公募)	私も先日、中日新聞にRYDEPASSが載っていましたので、このアプリに興味を持ちました。私もKANSAIMaaSを入れていて、関西エリアに行く時には、それでお得なチケットを買ったりしています。こんな形でデジタル化を進めていただき、また、この紙の時刻表のようなアナログな物もとても便利だと思います。 先日、鈴鹿のイオンモールに行った際に、時刻表が置いてあって良いなと思いましたので。アプリは、いろんなものを検索できますが、紙の時刻表は、見渡せるという利点もあります。伊賀市でも、鈴鹿市のような形で時刻表をショッピングセンターに置いていただきたいと思います。他にも、例えば市民センターやショッピングセンターに置く等、上手く活用してもらいたいと思います。 また、先日レストランに行った際に、にんまる時刻表が目立つように置いてありました。このようなレストランに置いてあると、私は知らなかったですし、郡部ではにんまるが通ってるのは見えても、どうやって走ってるのかが分かりませんでした。 繰り返しになりますが、このようなアナログ的なものと、

	便利なデジタルをうまく活用していただきたいと思います。そうすれば、子育ての支援にもなると思いますし、ハイトピアに置いておけば、妊婦、タクシーの事も載ってるので、200円でこんな所に行けるんだと、1つのきっかけづくりになると思います。 さらに先程出た高速バスのことです。高速バスが走り出した初期の頃は割とPRしていて、往復お得切符等の取り組みをしてくれていましたけども、最近は市内を巡るというのは見ましたが、もっとPRしていただきたいと思います。あと、やはり平日と休日で利用者が違うなと思いました。休日はやはり旅行者にしろ、出張や観光で利用をされていて、補助席を使わなくてはいけないという日も何回かありました。 ただ、午前で便と便の間が空いてるので、すごく早く家を出なくてはいけなかったり、利用者目線ばかりではいけないけれども、もっと上手くPRして、利用していただく方が増えたら良いなと思わせていただきました。 さらに、他では、いろんな無料のキャンペーンがあります。例えば、関西万博に行こうで、万博切符もあります。伊賀市でも、佐那具駅の駐車場を無料化したことで、どんな実績があったかをPRする等、調べにくいのもあると思いますが、1回リピートして、評価して、そこを再度利用してもらうのが大事になると思います。これだけ56の施策をいただいているので。
事務局	委員おっしゃる通り、にんまるの時刻表もハイトピア1階には置いていますが、郡部と言われる阿山、伊賀、その周辺には配っていませんので、今後、PRするようにしていきたいと思います。
委員 (市民公募)	枚数はいらないのでPRでお願いしたいです。
委員 (三重交通)	高速バス利用促進に向けて現在、何が良いのか考えているところです。往復切符が良いかどうか等については、営業所単体では判断が難しいので、本社と相談したいと考えています。また、伊賀市と相談しながら、どのような取り組みが良いのか考えていきたいと思います。増便もしたいのですが、コロナ以降、乗務員が不足という事態が続いておりまして、なかなかバスの運転手の採用が出来ないというのが現状です。

【承認】

(3) 伊賀市地域公共交通計画の認定申請に係る協議等について
事務局から、資料3に基づき説明

【意見】

委員 (三重交通)	フィーダー系統の認定申請ということで、路線バスの行き来が出来ない場合ところは、移動手段がない地域と考えられますので、私どもも何とか努力はしていきたいと思います。
--------------	--

【承認】

3. 報告事項

(1) 名張市妊産婦対象タクシー優先配車公共ライドシェア実証運行について
名張市から、資料4に基づき説明

【質疑応答】

委員 (市民公募)	2ページの事業スキームで、例えばアプリで利用をお願いした場合に、一旦タクシー事業者の方に配車依頼が行くと思いますが、事業者の方でタクシーが配車できない場合、ライドシェアへ移行することになるのでしょうか。そうすると、タイムラグができ、結果的に妊婦の負担はないのでしょうか。
名張市	アプリによる予約になりますが、まずタクシー事業者に、配車の依頼がいく形になります。一定期間タクシー事業が行けますよというご返答がない場合、一般ドライバーに情報が行く形になります。したがって、おっしゃっていただく通り、普通にタクシーを呼ぶよりは、少しタイムラグが発生するという可能性もございます。緊急時については、救急車を呼んでいただくとか、そういったことで対応いただくと考えております。一般の日常のお買い物であったり、通院であったりとか、そういった時に使っていただくようなことで検討しております。
委員 (市民公募)	本当にありがたいことで、私も姪がこの1月に出産しました。分娩施設がなくなってきた時点から、アラサーやアラフォー世代たちの話題になっています。妊婦は心身の負担がとても大きいので、より長い距離を乗るのも大変なので、近くであつたら、母体や心身の軽減にもつながりますので、こうやって進めていただけるのはありがたいです。事業開始が10月ですので、早めに周知していただけたらと思います。外国籍の方とか、母子手帳の際にこういうのがあるというのを、一緒に渡してくださるということですよね。いろんな方々に

	も行き渡るように、周知の仕方等も検討していただきたいと思います。
委員 (三重運輸支局)	私の方から制度に関して、説明させていただきます。自家用車を使った公共ライドシェア制度ですが、名張市からご説明のありました通り、タクシー運賃相当分、本来8割程度の運賃が目安としてあり、タクシー事業者に、協力をいただくこととなります。名張市は公共交通会議で、同等の金額であることが望ましいということで協議が整いましたので、8割で決められたとの事です。タクシー事業者協力型は、配車の範囲や運行管理ドライバーの定義をはじめ、車両が安全に通行できるための整備管理、そういったものが重要になってくると思います。

(2) 令和7年度バス路線別実績及び評価について
事務局から、資料5に基づき説明

【質疑応答】

会長	昨年度よりも数字が悪くなっているところもあるということですね。皆様からご意見等ありましたら、お願いします。
委員 (市民公募)	廃止路線になりそうなところの地域部会を開かれていますよね。そのときに数字を出されていると思うのですが、この3つ(※事業評価基準)に対して、どうやって地域で取り組んだら良いかを考えるのが私たち地域です。廃止になったら大変なことですから、地域部会には地域の代表の方に行っているから、代表の方に切実に感じ取って帰っていただきたいと思います。この3つを何とか1つでも、考えていかなくはいけないと思っています。 意外に思いましたのは、2月の駅伝の時に帰ってくるのが早くて、選手を迎えるまで、だいぶ時間があつたときに、日曜日だったのでにんまるが空っぽで、2回か3回通った時がありました。にんまるの収支率が2.5%で、阿山行政バスも2.9%になっています。阿山行政バスも平均乗車人数が0.8人で1人を下回っています。 例えば、公共交通期間利用促進月間みたいな形で、何とか乗せる人数をたくさん確保しないといけないと思います。また、地域の方にこの3つをどうやって呼びかけていくのかを知りたいと思いましたので、お願いします。 数字の細かいところも、後で個人的に聞かしてもらいたいと考えています。

事務局	この数字につきましては、一定の評価基準ということで、地域に行って、地域の方に見ていただいて、これだけ切迫しているというのをお示しさせていただきます。危機感を覚えていただいて、自分の地域で何か取り組んでいかないといけないと思ってくれている地域もあります。 皆様に危機感を持っていただくために、こういう数字は、折に触れ、提示はしています。 おっしゃる通り、にんまるについては、便数が多いのもあります。内回り外回りで計19便ありまして、人数もそれだけ多いんですが、便数も多いので、経費もかかってきている状況です。便数が多いから乗るのか、便数が少ないから乗らないのか。便数を増やしたら、阿山でも伊賀でも乗ってもらえるのかというと、そういうわけでもなく、便数をふやしただけ、経費もかかってきますし、人数がそれだけ乗ってくれるかという保証もございません。できたらその地域に合った形で実施したいところです。にんまるは市街地ですので、循環するような、市内を19便回るほうが適してるとは思いますが、例えば阿山でしたら、そういう循環までしていたら、おそらくお金もかかってきます。それでしたら、ドアツードアのような形で、呼んで来てもらって違うところに行く等、島ヶ原でのそういった取り組みもあり、地域ごとで課題は違いますので、地域のニーズに合った形態で実施したいと考えています。
委員 (市民公募)	素人で考えるのも、難しいところもありますのでぜひお願いします。
委員 (市民公募)	行政バスの直近3年間は上向き傾向に利用者数増えております。青山行政バスにおいては、2年前までは増えているんですけど、今おっしゃるようになんまるの方も3年目をピークにして、ここ2年間、極端に減っている率が高くなっていると思います。そのあたりは何か路線を変更したんでしょうか。
事務局	特に路線の変更はしておりません。にんまるにつきましては、令和3年度は、やはりコロナの影響があった時期かなと思います。一旦コロナで下がりました、そこから持ち直してきましたが、令和5年度、6年度は、アナウンスの声を小学生にする等の取り組みをしてきました。5年度、6年度は、そういった取り組みがあったというのもあり、伸びていると考えています。
委員	昨年度こちらに着任しまして、こどもアナウンスは、やはり

(三重交通)	それを聞きに親が乗ってきたりというのがあったのは聞いています。昨年度については、特段目立ったイベントが、見当たりませんでした。ですので、伊賀市内でイベント等があれば、お客様が乗っていただくことに繋がると思います。昨年度は、目立った動きはないので、数字としては大体このぐらいかなというのが私どもの認識です。
委員 (三重運輸支局)	廃止代替バスは、元々事業者がしていたところを現在伊賀市が支えているんですね。諏訪・予野線は、利用が他の路線に比べ、極端に少ないということがあります。何年もこういう状況が続いてるのかなと思います。これについては、この後資料6で、対策をご説明いただくとと思いますが、このままでもよくないですし、なにかしら考えていかないといけないのかなと思います。
事務局	委員おっしゃる通り、この諏訪・予野線につきましては、フィーダー補助もいただいておりますし、非常に厳しい状態です。令和2年度あたりから、数字が悪いところになっております。諏訪のほうは、取り組むべきことがありまして、話が進み始めてはおり、地域運行バスという形で、9割が市で補助をさせていただいて、地域の方は、1割の負担でバスを運行できるというものになります。 先日、諏訪地域に、地域の交通を考える委員会というのがありますので、そちらへ参加させていただきました。これから、その委員会が地域運行バスを導入できれば、諏訪・予野線の役割も担えるかなというところもあります。路線は3往復走ってるんですけども、今乗っておられる方も少なからずおりまして、すぐに廃止するというのも非常に難しいので、そういった地域運行バスや地域に合った交通手段ができましたら、それから廃止という形にしたほうが良いのではという事で、話はしています。
委員 (三重運輸支局)	利用する方は、学生ではなく高齢者が多いですか。
事務局	高齢者が多いです。
委員 (三重運輸支局)	地域で検討進められると思うのですが、こちらでも何か使用できるものがないか、一緒に考えたいと思います。

(3) 行政バス「リ・デザイン」幸せな暮らしプロジェクトについて
事務局から、資料6に基づき説明

【質疑なし】

（４）伊賀鉄道を軸とした地域活性化プロジェクトについて
事務局から、資料 7に基づき説明

【質疑なし】

（５）次期伊賀市地域公共交通計画の策定状況について
事務局から、資料 8に基づき説明

【質疑なし】

（６）その他
事務局から、伊賀市地域公共交通の地域部会の細則の一部を改正する新旧対照表について説明

【質疑なし】

（終了）